

## 第4回福山市少子化対策専門家会議 議事概要

日 時：2026年（令和8年）1月28日（水）13:00-15:00

場 所：60会議室（オンラインと併用）

出席者

- ・委員 相良委員、正保委員、白河委員、田中委員（座長）、山田委員、吉田委員
  - ・事務局 中村副市長  
小畑部長、中山課長、田村次長、畑、羽原、新（事務局サポート）  
藤井局長、児玉部長、神原部長、影山課長、金高課長、増野専門員  
渡邊部長、田上課長、熊谷課長
- 

### 1 議事

(1)提言書（たたき台）について

### 2 概要

【相良委員（日本産婦人科医会・昭和医科大学）】

- 子育てが困難な家庭には、早い時期から保育園を使っただけの方が、親にとっても子どもにとってもメリットがあるという状況がある。そういった方たちが気軽に保育所を使えるような施策を考えていただきたい。
- 若者が自身のライフプランを自由に描けること（自己決定）が重要であり、その基盤になる重要な要素が健康と生殖についての知識である。その意味でプレコンセプションケアの普及は不可欠である。
- 国が提唱しているプレコンセプションケアの五か年計画は、啓発、一般相談、専門相談の三段階になっており、これを推進していくためには、行政機関だけでなく、教育機関や産科医療機関の協力を得て、段階的な体制整備を考えていく必要がある。

【正保委員（福山市立大学）】

- 保育料の無償化等を検討する際には、医療費についてもセットで考えるケースが多い。
- メッセージに「福山市の未来は、あくまでも福山市の皆さんで自ら選択すべきものである。」とあるが、丸投げする感じするので、最初の部分に、福山市の未来はあくまでも福山市の皆様を選択だけでも、自分たちはこういうふうな提言をしたいという言い方がいいのではないか。

【白河委員（昭和女子大学）】

- 働いているいないにかかわらず、誰でも通園制度のような制度を利用して、相談窓口にも繋がりがやすいようにする工夫をぜひしていただきたい。
- ジェンダーギャップ是正やSRHRなど新しい方向性を示したことを、公表用資料にわかりやすくまとめることで、今までと同じことをやるわけじゃない、方向性がこのように変わったんだと伝わりやすくなる。
- ジェンダーギャップ是正、男女賃金格差の是正、フェアネスという言葉を入れてほしい。

- 自己決定については、尊重するだけではなく、支援する形で整備するという文言を入れてほしい。

#### 【田中委員（国立社会保障・人口問題研究所）】

- 経済的負担の軽減については、全てを無償にするということの意味はない。個人で負担する部分と、社会全体で負担する部分が両方あってしかるべきである。全体の経費に対し利用者負担をいただいている部分をしっかり見える化して議論をするなどコスト意識を喚起することが重要である。
- 少子化対策を目的としていると誤解されないKPIにする必要がある。
- 提言の柱の順番については、まず自己決定の支援ということを明確にする。しかし自己決定の支援といっても、環境が許さなければ選択しようがないので、環境整備として、多様な暮らす働く場の醸成や経済基盤の確保が続く流れがわかりやすいと思う。
- やはり少子化というのは、結果として効果が表れることである。男女共同参画などをめざすべきであり、その結果として、少子化の反転に繋がるということが重要。

#### 【山田委員（中央大学）】

- 専用職も含めて自営業やパートで働く人などは、産休・育休が取得できない、保育所に預けることができないというように支援が受けられていない人がいる。
- 少子化対策自体を目的化しないとなっているが、個人的には1つの目的にしてもいいのではないかと社会学者としては思う。
- 最近の若者の間には、自己決定疲れを感じている人も多い。
- 性だけでなく、人間とのコミュニケーションを面倒に思う若者が増えてきたことに対してどうするかという問題が今後現れるだろう。

#### 【吉田委員（株式会社保育システム研究所）】

- 費用負担の軽減については、子育て家庭のこどもに範囲が限定された現物給付のような支援のほうが効果的であり、世帯所得によって本来は画一でないほうがいいと考える。経済力のある家庭が無償化を受ければ、浮いたお金をさらに他のことにまわすことができ、違う格差を生む可能性がある。
- 社会保障制度は世代間付与であるため、自分のこどもであるかないかにかかわらず、日本で生まれ育つこどもは全て社会の子であり、このこどもたちが健やかに育つことによって自分たちが高齢者になったときの社会保障を支えるという観点が全然浸透しないという大きな問題がある。
- 住宅施策については、単に家賃を下げるだけじゃなく、子育て家庭が地域に定住をして、お互い気持ちよく住める環境を整えることも重要である。
- 無償化で実現する公平性より、質の高い保育を家庭の所得に関係なくすべてのこどもに保障するという公平性を発揮するという考え方もある。
- KPIについては、アウトカム指標を設定すべきであるが、国も検討段階であることから難しい分野もある。その場合は、アウトプット指標とアウトカム指標を二重構造にする方法もある。

- プレコンセプションケアや SRHR、KPI など一般的に浸透していない言葉は語句説明を入れたほうがよい。

※本議事概要は、事務局において発言内容を要約・整理したものであり、表現の一部は、事務局で補っています。

※外部への転載・引用は、お控えいただくとともに、必要がある場合においては、事務局までご相談ください。